

「デリバティブ取引に関する定例市場報告 (吉国委統計)」の第2回(98年12月末)調査 結果について

1999年2月25日

金 融 市 場 局

国際決済銀行(BIS)およびG10諸国^(注1)の中央銀行は、96年7月にBISによって取りまとめられた「グローバルなデリバティブ市場統計の改善に関する提案(吉国委員会報告書)」^(注2)を受け、新たにグローバル・ベースのデリバティブ統計の作成に協力して取組んでおり、昨年6月末に第1回の調査を行った^(注3)。今回公表する統計は、日本に関する第2回(98年12月末)調査結果である。なお、BISでは、参加各国の調査結果を集計し、追ってグローバル・ベースでのデリバティブ取引残高統計を公表する予定である。

BISでは、デリバティブ市場の透明性確保と、マクロ・プルーデンス上のモニタリング強化を目的として、①主要ディーラーだけを対象に、半期に1度作成される残高統計、②広範なディーラーを対象に、3年に1度作成される取引高および残高の統計、の2種類の統計を用いて、グローバル・ベースでのデリバティブ市場の調査を実施することにしており、標記調査は、上記の

うち①に該当するものである。なお、上記のうち②に該当するものは、昨年10月にBISから「外為・デリバティブ・サーベイ」として取引高の調査結果が公表されており、残高については本年中にその結果が公表される予定である^(注4)。

本調査は、「デリバティブ・サーベイ」と同様、金融機関の自主的な協力に基づき作成されるものであり、本邦からは、主要ディーラー18先が参加している(グローバル・ベースでは、G10諸国から75先が参加)。

本調査では、リスク・ファクターを、①外為、②金利、③エクイティ、④コモディティの4種類に分け、①商品別、②通貨別、③取引相手別、④残存期間別に、想定元本および正・負の市場価値について、連結ベースの計数を取りまとめている。

本調査結果の主要な特徴点をまとめると別添のとおりであるが、詳細については、インターネット上の日本銀行ホームページ(<http://www.boj.or.jp/>)より入手できる。

(注1) ベルギー、カナダ、スイス、ドイツ、フランス、英国、イタリア、日本、オランダ、スウェーデン、米国の11か国。

(注2) 日本銀行月報1996年9月号掲載「グローバルなデリバティブ市場統計の改善に関する提案(吉国委員会報告書)」参照。

(注3) 日本に関する調査結果については、日本銀行調査月報1998年10月号掲載「『デリバティブ取引に関する定例市場報告(吉国委統計)』の第1回調査結果について」を、また、グローバル・ベースの調査結果(邦訳)については、日本銀行ホームページ(<http://www.boj.or.jp/>)をそれぞれ参照。

(注4) 日本におけるデリバティブ市場の取引高および残高の調査結果については、日本銀行調査月報1999年1月号「わが国デリバティブ市場の規模と構造」を参照。

「デリバティブ取引に関する定例市場報告（吉国委統計）」

第2回（98年12月末）調査結果の概要（注）

1. デリバティブ取引残高の規模

（1）想定元本ベースの取引残高

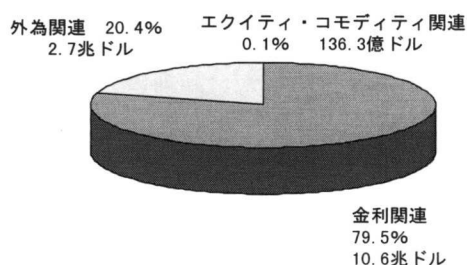
98年12月末における本邦主要ディーラーのデリバティブ取引残高は、想定元本ベースで店頭（O T C）取引が13.3兆ドル、取引所取引が9.7兆ドルの規模。これを前期（98年6月末）と比較してみると、O T C取引が+0.4兆ドル（+2.9%）と小幅な増加にとどまったのに対し、取引所取引は+2.4兆ドル（+33.1%）と大幅な増加を示している。こうした取引所取引の増加は、もっぱら金利関連取引（前期比+33.5%）の伸びを反映したもの。一方、O T C取引では、金利関連取引（前期比+10.7%）とエクイティ関連取引（同+21.6%）が増加した反面、外為関連取引（同▲19.4%）とコモディティ関連取引（同▲62.8%）が減少している。

—— また、前回に引き続き調査を行ったクレジット・デリバティブについてみると、取引残高は113億ドルであり、O T C取引全体に占めるシェアは0.1%と依然小さいものの、前期比+14.9%と高い伸びを示している。

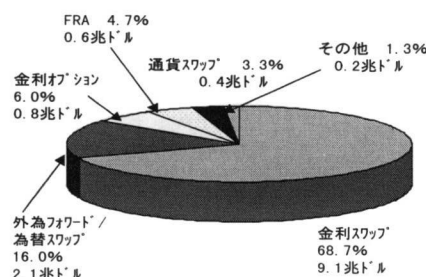
OTC デリバティブ取引の残高（98年12月末：想定元本）

13.3 兆ドル

リスク・ファクター別内訳



商品別内訳

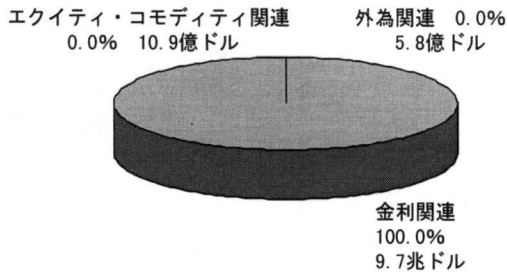


（注）本調査では、報告対象金融機関間での取引の二重計上を調整していない。なお、B I S より追って公表されるグローバル・ベースの残高では、二重計上が調整される予定。

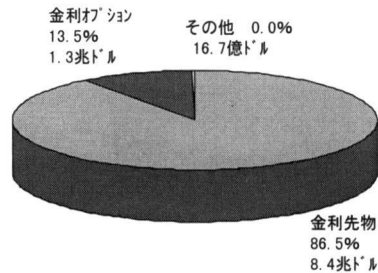
取引所デリバティブ取引の残高（98年12月末：想定元本）

9.7兆ドル

リスク・ファクター別内訳



商品別内訳



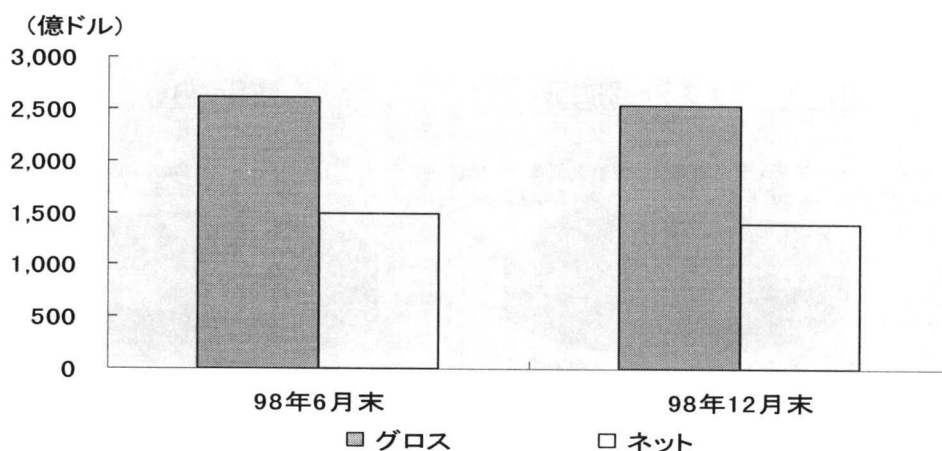
リスク・ファクター別の構成をみると、金利関連取引のシェアがOTC取引で79.5%（前期は73.8%）、取引所取引で100.0%（同99.7%）と、金利関連取引中心の傾向が前期より強まっている。同様に商品別の構成についても、OTC取引では金利スワップが68.7%（前期は63.0%）、取引所取引では金利先物（ロングおよびショート・ポジション）が86.5%（同89.0%）と、引き続き特定の商品に集中している。

（2）市場価値ベースの取引残高

グロス市場価値ベースのOTC取引残高についてみると、想定元本ベースの取引残高が前期比増加しているにもかかわらず、正の市場価値は2,528億ドル（前期比▲3.1%）、負の市場価値は2,249億ドル（同▲16.1%）と減少している。一方、市場価値の対想定元本比率をみると、前期と同様に、金利関連取引に比べて外為関連取引の方が比率が高くなっている（金利関連取引平均1.2%、外為関連取引平均4.1%）。

ネットティング契約によるリスク削減効果を考慮した市場価値（ネット）については、正の市場価値が1,393億ドル、負の市場価値が1,050億ドルと、それぞれグロス市場価値の2分の1程度の規模となっている。特に信用リスクを反映する正の市場価値については、ネットティング契約によって1,135億ドル（44.9%）も圧縮されており、前期（圧縮率42.8%）に比べその信用リスク削減効果が若干高まっている。

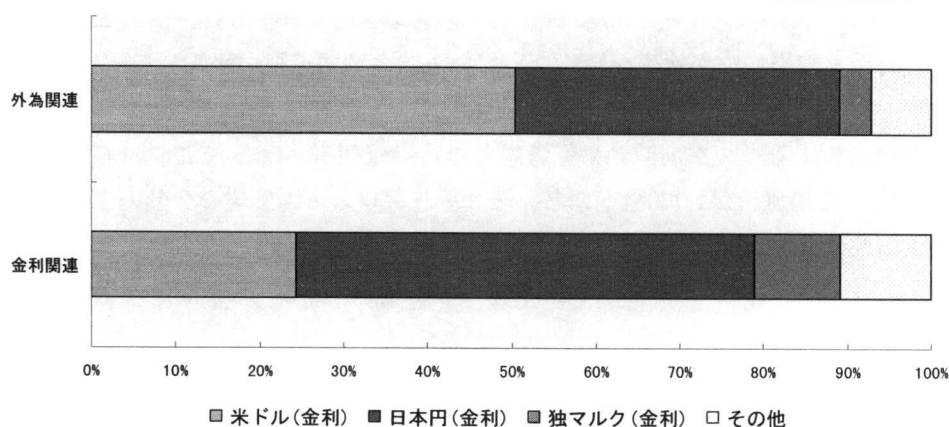
本邦主要ディーラーにおける正の市場価値



2. 通貨別内訳の特徴

本邦主要ディーラーのOTCデリバティブ取引の通貨別内訳を想定元本ベースでみると、外為関連取引については、米ドルが2.7兆ドルと最大のシェア（50.6%＜前期は51.1%＞）を占めており、以下、日本円2.1兆ドル（シェア38.6%＜同35.1%＞）、独マルク0.2兆ドル（同3.8%＜同6.2%＞）がこれに続いている。一方、金利関連取引については、円金利関連が5.8兆ドルと最大のシェア（55.3%＜前期は49.1%＞）を占めており、米ドル金利関連2.5兆ドル（シェア24.1%＜同28.3%＞）、独マルク金利関連1.1兆ドル（同10.3%＜同10.7%＞）の順となっている。前期との比較では、外為および金利関連取引のいずれにおいても、円関連取引のシェアが高まった一方、米ドルおよび独マルク関連取引のシェアは低下している。

OTC デリバティブ取引の通貨別内訳（98年12月末：想定元本）

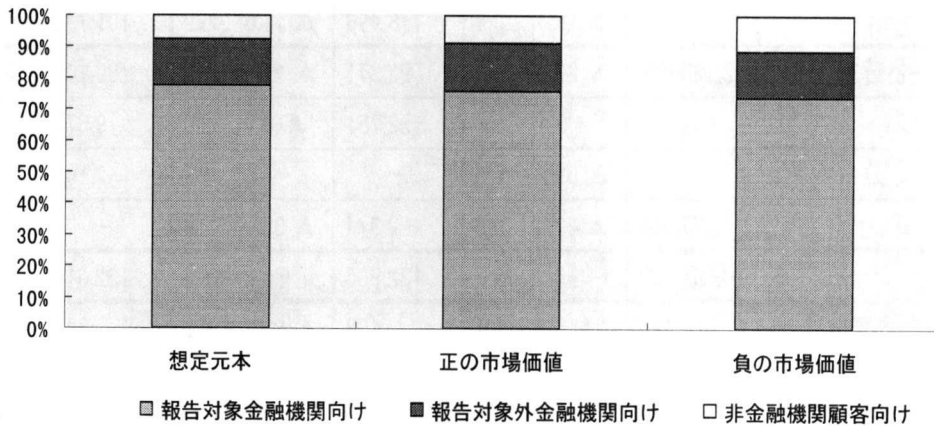


—— なお、グロス市場価値ベースでみても、想定元本ベースの通貨別内訳とはほぼ同様の構成となっている。

3. 取引相手先別の特徴

本邦主要ディーラーのOTCデリバティブ取引を取引相手先別にみると、前期と同様に、調査参加金融機関（主要ディーラー）相互の取引が、想定元本ベースでも、グロス市場価値ベースでも7割以上を占め、その他広義金融機関との取引も含めると約9割が金融機関間の取引となっている。

OTC デリバティブ取引の取引相手先別内訳（98年12月末）



4. 残存期間別の特徴

残存期間別にみると、残存期間が1年以内の取引が最も多く、短期中心の構成となっている。もっとも金利関連については、1年超5年以内の取引のシェアが高まっており、現状では1年以内の取引とほぼ同程度のシェアを占めている（金利関連のうち1年以内のシェア45.2%＜前期は55.2%＞、同1年超5年以内44.8%＜同36.1%＞）。

OTC デリバティブ取引の残存期間別内訳（98年12月末：想定元本）

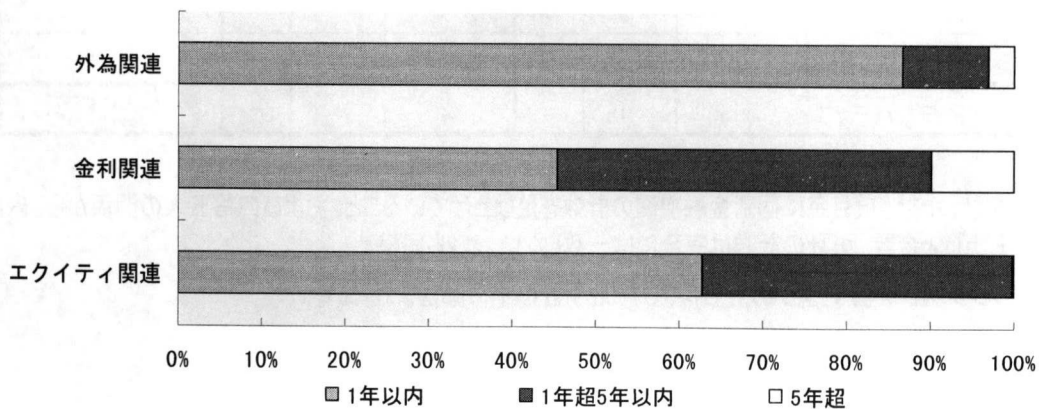


表1: 本邦主要ディーラーにおけるOTCデリバティブ取引の残高

(98年12月末、百万ドル)

	想定元本			正の市場価値			負の市場価値		
		前期比 (%)	シェア (%)		前期比 (%)	シェア (%)		前期比 (%)	シェア (%)
OTC取引合計	13,291,109	+ 2.9	100.0	252,778	▲ 3.1	100.0	224,869	▲ 16.1	100.0
うち外為関連取引	2,716,284	▲ 19.4	20.4	118,496	▲ 11.6	46.9	101,789	▲ 24.0	45.3
フォワード・為替スワップ	2,123,846	▲ 20.7	16.0	93,371	▲ 11.0	36.9	80,109	▲ 23.3	35.6
通貨スワップ	434,142	+ 3.4	3.3	22,751	▲ 9.9	9.0	19,574	▲ 23.6	8.7
オプション(売り)	81,208	▲ 39.9	0.6	-	-	-	2,108	▲ 44.4	0.9
オプション(買い)	77,090	▲ 42.8	0.6	2,374	▲ 38.0	0.9	-	-	-
うち金利関連	10,561,197	+ 10.7	79.5	132,966	+ 5.4	52.6	122,614	▲ 8.2	54.5
FRA(金利先渡取引)	623,115	▲ 5.7	4.7	402	▲ 93.0	0.2	346	▲ 96.5	0.2
金利スワップ	9,134,592	+ 12.3	68.7	127,471	+ 14.9	50.4	117,327	+ 6.5	52.2
オプション(売り)	431,993	+ 5.3	3.3	-	-	-	4,941	▲ 63.5	2.2
オプション(買い)	371,496	+ 11.5	2.8	5,093	▲ 46.3	2.0	-	-	-
うちエクイティ関連	12,649	+ 21.6	0.1	1,061	+ 66.0	0.4	387	▲ 42.1	0.2
フォワード/スワップ	6,751	+ 20.6	0.1	21	▲ 67.2	0.0	57	+ 14.0	0.0
オプション(売り)	2,526	▲ 5.1	0.0	-	-	-	330	▲ 46.6	0.1
オプション(買い)	3,372	+ 57.1	0.0	1,040	+ 80.9	0.4	-	-	-
うちコモディティ関連	979	▲ 62.8	0.0	222	+ 26.9	0.1	50	+ 233.3	0.0
フォワード/スワップ	82	▲ 82.1	0.0	-	-	-	-	-	-
オプション(売り)	448	▲ 56.4	0.0	-	-	-	-	-	-
オプション(買い)	449	▲ 61.0	0.0	-	-	-	-	-	-
(参考) クレジット・デリバティブ	11,268	+ 14.9	-	-	-	-	-	-	-

(注1) 合計、小計、項目毎に個別金融機関の計数を足し上げていること、および四捨五入の関係から、内訳の足し上げと合計、小計の計数は完全には一致しない。表2も同様。

(注2) クレジット・デリバティブの計数は、OTC取引計の中には含まれない。

表2: 本邦主要ディーラーにおける取引所デリバティブ取引の残高

（98年12月末、百万ドル）

	想定元本		
		前期比 (%)	シェア (%)
取引所取引合計	9,717,585	+ 33.1	100.0
うち外為関連取引	579	▲ 93.6	0.0
先物(ロング・ポジション)	114	▲ 97.4	0.0
先物(ショート・ポジション)	465	▲ 85.4	0.0
上場オプション(買い)	0	▲ 100.0	0.0
上場オプション(売り)	0	▲ 100.0	0.0
うち金利関連	9,715,916	+ 33.5	100.0
先物(ロング・ポジション)	4,379,410	+ 32.8	45.1
先物(ショート・ポジション)	4,027,970	+ 25.9	41.5
上場オプション(買い)	518,301	+ 18.0	5.3
上場オプション(売り)	790,235	+ 132.2	8.1
うちエクイティ関連	1,090	▲ 91.0	0.0
先物(ロング・ポジション)	354	▲ 68.0	0.0
先物(ショート・ポジション)	442	▲ 69.1	0.0
上場オプション(買い)	103	▲ 97.7	0.0
上場オプション(売り)	191	▲ 96.4	0.0
うちコモディティ関連	0	▲ 100.0	0.0
先物(ロング・ポジション)	0	▲ 100.0	0.0
先物(ショート・ポジション)	0	▲ 100.0	0.0
上場オプション(買い)	0	▲ 100.0	0.0
上場オプション(売り)	0	▲ 100.0	0.0